

【やままゆ連・手作りカフェー】

## ～ カラムシ繊維採りとひも作り ～

7月4日(土) 9:30 ~ 12:00 平和台集会所

毎年夏になると緑地の脇に生えているカラムシを刈ってきて繊維をとります。



カラムシの繊維はとても強く、水にも強いので縄文の時代から衣服にしたり釣り糸に使われたり

りと利用されてきました。調布(奈良時代に租庸調の調として、カラムシの布を用いたのでしょう)、麻生、麻布など多くの地名のもとにもなっています。

この繊維を使って、何を作りましょう。ポシェット、布袋、織物など・・・夢は広がりますが、とりあえず糸を撚りました。

撚る(よる)と、縋う(なう)ということばがあります。どちらも似ている言葉だけれど、どこか違うはずだ、一体どう違うのだろう? と話題になりました。あとで調べたところ、撚るは一方方向にねじっていくことで、その撚った藁を組み合わせさせて縄を作っていくのが、縋うということのようです。

昔は言葉は一つ一つきちんと区別されていたのですが、縋ったり撚ったりするその行為がなくなっていくにつれて言葉の意味の違いも不明瞭になっていくのですね。

やままゆカフェー：朝どりキュウリ 梅みそ

(小川)

